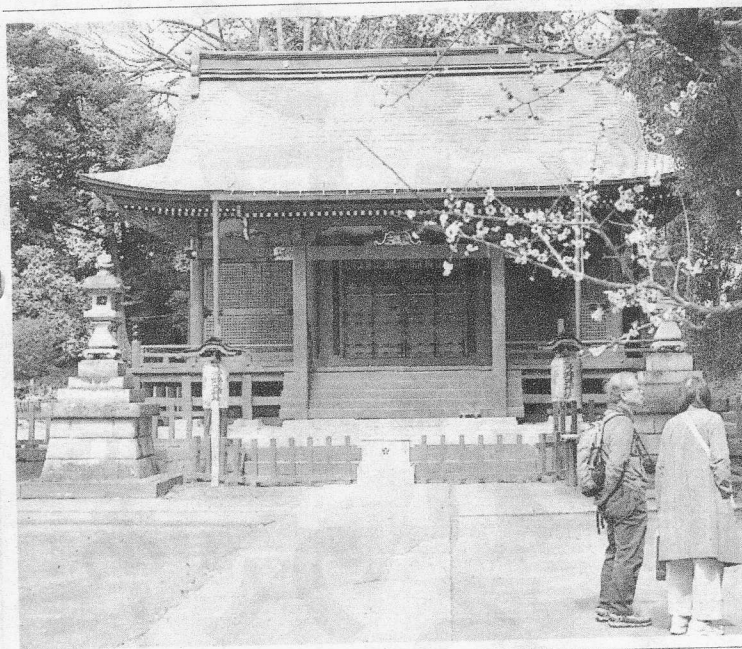


# 「とおりゃんせ」発祥の地 川越の三芳野神社 市中心部で最古級

童謡「とおりゃんせ」の発祥の地とされる川越市の三芳野神社（県指定文化財）の「平成の大修理」が先月終わった。修理と合わせて市教委が柱を調査した結果、火災に遭った跡がなく、城下町だった市中心部では再建歴のない最古級の建物の一つだったと判明。柱が建築時期より90年以上古い木材だったことも分かり、新たな謎も浮上した。

市教委によると、神社は江戸時代初期の1624年創建。約140年ぶりとされる大修理は、1989年から昨年までで、補修や塗り直しをした。漆の塗膜層の調査結果をもとに、現在の姿へ改築された1656

年当時の色彩に復元した。柱の調査の結果、火災に一度も遭っていないことが



わかった。近くの川越大師喜多院や仙波東照宮も焼けた1638年の大火などの被害を受けていない貴重な建物と確認された。

神社は1656年の改築の際、江戸城二の丸東照宮（1622年築）の木材を使ったとの説が根強い。塗膜層の調査では、東照宮ならあるはずの極彩色の塗装

跡がなかった。調査担当者は「塗装を削り落とした可能性はあるが、説の裏付けは出来なかった」と話す。

また、柱材の放射性炭素測定をしたところ、本殿の柱は建築年より328〜224年、拝殿の柱は233〜209年古い木との結果が出た。より新しい外側の部分を整形のために削った分を差し引いても、90年は古いとみられるという。江戸城二の丸東照宮の建造よりずっと前に切られた木材だったことになる。

当時は壊した建物の古材をよく再利用したといい、調査担当者は「現在の技術では、元々は何の木材だったのかまでは不明。今後は、新たな古文書などが発見されるのを期待したい」と話している。（西堀岳路）

「平成の大修理」が終わり鮮やかな姿を見せる三芳野神社。参道が童謡「とおりゃんせ」の「細道」とされる川越市郭町2丁目